

農業技術 プリズム

り3、4日早く、樹姿はやや開張型で幼木時の仕立ては容易です。「やぶきた」と比べて収量が多く、品質は各茶期とも優れます。表。かつ、新芽の緑色が濃く、明るい外観と良好な水色

茶「さえあかり」の品種特性

品質優れて高収量 炭そ、輪斑病に強い

「さえあかり」の生葉収量と荒茶全窒素含量

年	品種名	一番茶		二番茶		三番茶	
		収量 (kg/10a)	全窒素 (D.B.%)	収量 (kg/10a)	全窒素 (D.B.%)	収量 (kg/10a)	全窒素 (D.B.%)
2008	さえあかり	269	6.3	301	4.7	—	—
	やぶきた	128	6.3	100	3.7	—	—
09	さえあかり	294	5.8	227	5	—	—
	やぶきた	232	5.3	85	4.3	—	—
10	さえあかり	555	5.7	760	4.5	680	3.8
	やぶきた	469	5.2	397	3.3	277	3.4

現在、長崎県の茶栽培面積は754畝で、81%を「やぶきた」が占めています。「やぶきた」は、渋味とうま味のバランスが良好で総合的に優れていますが、生産現場では、一品種偏重による摘採時期の集中や、茶樹の老木化による収量、品質の低下が問題となっており、県としても他の優良品種への改植を推進しています。優良品種の「さえあかり」の品種特性について紹介します。

「さえあかり」は、樹勢が多く収得で輪斑病に強い「Z1」を母親に、高品質で炭そ病に強い「さえみどり」を父親として、(独野菜茶業研究所枕崎茶業研究拠点)で交配、育成されました。摘採適期が「やぶきた」よ

が特徴であり、市場ニーズに対応した高品質茶生産が期待できます。炭そ病、輪斑病には抵抗性がありますが、もち病、クワシロカイガラムシにはやや弱いので、それらの発生する地域では防除が必要です。

本県は、2011年に全国に先駆けて「さえあかり」を県認定品種として指定し、面積拡大を推進しています。現在の栽培面積は約6畝で、今後の面積拡大が期待されます。
(県農林技術開発センター・池下一豊)